

## 土井ヶ浜整備事業基本構想の目的

下関市には、各地域に史跡や記念物、民俗資料が数多く存在しており、博物館や資料館（以下、「博物館施設」という。）はそれらを調査研究するため、その近隣に設置され、今日まで地域の歴史や文化、自然環境を広く発信してきました。今後もこの特色を活かし、各博物館施設の専門性をさらに充実させるとともに、複数の施設が積極的に連携し、これまで蓄積されてきた多彩な文化財・博物館資料（以下、「資料」という。）をいっそう活用しながら、時代や社会環境の変化に伴って多様化する市民ニーズに応え、子どもから高齢者まですべての方が学び、楽しむことができる博物館活動を展開していく必要があります。

このような立地上の特徴から、博物館施設で収集している資料の多くは、市内各所に分散して収蔵され、それらは博物館施設の収蔵能力を超え、収蔵庫に収まりきれず、本来資料の収蔵庫ではないプレハブ施設での保管を余儀なくされるなど、劣悪な環境下で損傷、滅失の危機に直面しています。

そのため、市内の博物館活動の推進には、適切な温湿度管理機能を備えた一定規模の収蔵能力を有する、博物館施設の共通基盤となる収蔵庫の整備が急務となっています。

また、1993（平成5）年に開館した土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム（以下「人類学ミュージアム」という。）は、将来の新たな整備計画に必要と想定される敷地を確保したものの、建設から20年以上の経過による建物・設備の老朽化が進行しており、また展示や収蔵に係る博物館機能が十分ではないことから、展示内容やユニバーサルデザインに関して、来館者のニーズに対応することができていません。

これらの課題を克服し、本市の資料を良好な状態で保全し、未来へ確実に継承することで、多様な地域性を背景とした下関の独自性や個性を明らかにしていきます。

また、土井ヶ浜整備事業は、豊北地域のまちづくりや地域課題の解決にも貢献しつつ、知的探求の連携拠点の役割を果たしていきます。

以上の目的を実現するために、土井ヶ浜整備事業基本構想を策定し、今後の整備に向けての指針とするものです。

## 土井ヶ浜整備事業の基本理念

下関の多様で、多彩な資料を損傷、滅失から守り、次世代に活用可能な資料として継承していくため、また老朽化と市民のニーズに対応するために、共通展示収蔵施設建設と人類学ミュージアムのリニューアルを行います。

## 土井ヶ浜整備事業の基本方針

土井ヶ浜整備事業では、豊北地域の自然豊かな立地環境を活かし、くつろぎと交流が生まれる空間の創出を目指し、整備します。

整備によって、さらに多くの市民や観光客に訪れていただき、土井ヶ浜遺跡や資料がもつ豊かな歴史的、文化的価値を楽しく学びながら、下関の多様な歴史文化を体感し、知的好奇心を育みます。

#### ①共通展示収蔵施設の整備

市内の博物館を含む資料収蔵施設において、適切な保存や管理がおこなわれていない環境のもとで分散収蔵されている資料について、適切な収蔵及び活用のあり方を検討し、適切な収蔵環境の下で収蔵し、資料をスムーズに利活用できる展示環境を備えた共通展示収蔵施設を整備して、市内の貴重な資料を次世代に確実に継承するための収蔵拠点とします。

#### ②人類学ミュージアムのリニューアル

土井ヶ浜遺跡や人類学ミュージアムの魅力をいっそう引き出すために、老朽化している建物・設備を更新するとともに、共通展示収蔵施設を共有することにより、不足している博物館機能を補完し、市民や観光客にこれまで以上に楽しんでいただける魅力ある博物館活動を展開します。